

ガスを使用する一般住宅と電気だけ使用する オール電化住宅をくらべてみました

《1》設置費をくらべてみます。

台 所	ガス Siセンサーコンロ	20万円前後
	電気 IHコンロ	30万円前後
給湯器	ガス エコジョーズ24号	40万円前後
	電気 エコキュート370L	70万円前後

* 機器単体の定価ベースで概略くらべてみました。

* 設置費は総じてガス機器の方が安いと言えます。

《2》維持費をくらべてみます。

* お台所と給湯用ガスのご使用量を基として熱量・効率を換算して筆者独自に
年間の維持費を試算してみました。

ガ ス	一般ガス料金で7万円弱となります。
電 気	スマートライフプラン料金で7万円強となります。

* 維持費ランニングコストは少しガスの方が安いこととなります。

(ご参考事項)

- ① 「電化上手」料金での安価な深夜料金は23時～7時の8時間で1kw12.25円でしたが、新たな「スマートライフプラン」料金では深夜料金は1時～6時の5時間となり1kwh17.46円となっています。
- ② 現状の「再生可能エネルギー発電促進賦課金」は1kwh2.64円ですが、政府試算で2030年に4円～5円になり、オール電化住宅の年間電気ご使用量を9,600kwhとして賦課金を4円としますと1年間の賦課金は38,400円となり電気をたくさんお使いになるご家庭は負担が多くなります。(年間使用量は環境省によるHEMS実測値から筆者が独自で算出しました。)

《3》コンロによる事故をくらべてみます。

* 東京消防庁管内での平成28年度の火災件数は

ガスコンロによる火災	341件
電気IHコンロによる火災	21件

(ご参考事項)

- ① 現在販売させていただく総てのガスコンロはSiセンサーコンロになってますがSiコンロとなる前の平成19年度でのガスコンロ事故583件からくらべますと58%に事故が半減しましたので現状のSiコンロ普及率60%程度からさらに普及しますのでガスコンロによる事故は今後激減するものと考えます。
- ② IHコンロの普及率が20%程度であることを考えますとIHコンロにおける事故は決して少ないとは言えません。

《4》ガス給湯器「エコジョーズ」と電気給湯器「エコキュート」の適正をくらべます。

	出湯量／貯湯量	適応家族人数
ガス エコジョーズ (瞬間式)	16号	1人～2人
	20号	2人～3人
	24号	3人～4人
電気 エコキュート (貯湯式)	370L	3人～5人
	460L	4人～7人

* ガスエコジョーズは小世帯～中世帯に適しています。

* 電気エコキュートは中世帯～大世帯に適しています。

(ご参考事項)

- ① 子供が巣立って夫婦のみとなった世帯および単身世帯ではガスの方が適してると言えます。
- ② 現在入間市の平均世帯人数は2.37人で今後も少なくなります。
- ③ エコジョーズは修理・取替等の場合速やかに対応させていただけると共に弊社では「貸し給湯器」による緊急対応もさせていただき安心いただけます。

《5》地球環境にはどちらがエコか？ 一次エネルギーをくらべてみました。

	軒先着エネルギー	機器効率	一次エネルギー効率
ガスSiコンロ	1.0	0.55	0.55
電気IHコンロ	0.37	0.79 *1	0.292
ガスエコジョーズ	1.0	0.95	0.95
電気エコキュート	0.37	1.82 *2	0.673

*1東京ガスさん測定値 *2広島大学さんグループ測定値

* お台所のコンロも給湯器もガスの方が一次エネルギーの消費量が少なくエコであると言えます。

(ご参考事項)

- ① ガスと電気のハイブリッド給湯器リンナイさんの「エコワン」は一次エネルギー効率1.56と省エネ機器で既に発売しております。
- ② 電熱で加熱する「電気温水器」は維持費も高く非省エネ機器ですので早急な取替が望まれてます。

《6》ガスコンロを電気IHコンロに取替ますと

* IHコンロは最大5.8kwもの電気を消費しますので電気使用量と電気の基本料金が高くなり**省エネ・省マネーにはなりません**。前述させていただきましたが 現在の「Siガスコンロ」は安全性が格段に向上してますと共に高齢のお客様向けに誰もが安心してお使いいただける「ユニバーサルコンロ」もお使いいただけます。

《まとめとお願い》

安全・安価で地球環境にもやさしい**お使い慣れた**ガスを引き続きお使いいただくと共に地震等の災害を想定しましても電気だけの単一エネルギー生活では不安です。
安全性が向上した省エネガス機器で引き続き**ガスをお使いいただく一般住宅**でお過ごしいただけますようお願い申し上げます。

平成29年10月 筆者 谷口秀男